

## 総合科学部 日本語教育関連授業

国際センターの日本語教育担当教員が総合科学部の日本語教育に関する専門科目を担当している。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2				日本語教育演習／ 日本語教材研究（後期）	
3・4		日本語教授法Ⅰ （前期） 日本語教授法Ⅱ （後期）			
5・6					
7・8					
9・10					

### 日本語教授法Ⅰ 前期

- ・担当：大石 寧子
- ・受講人数：27名（含．留学生／中国 2名）
- ・使用教材：適宜プリント配付
- ・概要：

「外国語としての日本語」を支える教授法を日本語教育の歴史的流れに沿って、ビデオ等も使いながら実施。またそれぞれの特徴ある教授法について小グループに分かれ、考察や振り返りを行った。主な内容は以下のようなものである。

- ・日本語教育とは
- ・日本語教育の流れ
- ・伝統的な日本語教授法
- ・オーディオリンガルメソッドとその前後
- ・コミュニケーションを中心とした教授法－外国語教育と日本語教育
- ・現在の日本語教育

### 日本語教授法Ⅱ 後期

- ・担当：橋本 智
- ・受講人数：16名
- ・使用教材：「日本語教育文法講義ノート」 山下暁美・沢野美由紀著 アル

ク

・ 概要：

留学生をはじめ外国人と接する時、日本語はコミュニケーション手段の基本となり、その日本語を支えているものは文法である。国文法とは異なる視点で形成された外国人のための日本語教育の文法の概要を知り、日本語の仕組みを体感する。日本語学習の初級で学ぶ主な文法項目を、講義や教科書、また実際の文での使われ方を通して学ぶ。

日本語教育演習／日本語教材演習 後期

・ 担当：大石 寧子

・ 受講人数：12名（含．留学生／中国 3名）

・ 使用教材： 「みんなの日本語初級 I 本冊」スリーエーネットワーク  
「みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説」 //

・ 概要：

「みんなの日本語」を使って、本コースのために留学生を募集し、実際に授業をする実習形式をとった。扱う範囲は1課～8課までとし、1回30分ずつ2名で担当することとした。実習事前に当該課担当の二人は、授業外にシラバス抽出・選択をし、教案を作成し、教員の指導を受けた。教案の書き直しをし、教材教具の調達をして、クラスに臨んだ。その日の授業では実習のあとに教員がその日のまとめをして留学生を帰し、その後クラス全体で振り返りを行った。またこの期間に国際センター第6回シンポジウム「多文化に生きる人のための日本語教育パート2ー地域のための日本語ワークショップ」にも参加し、ボランティアの日本語教育についての講演や地域住民とボランティアの日本語教育について意見交換をする機会をえた。

